

有限会社大建テック

■事業

測量工数を大幅に削減する3Dレーザースキャナーによる
三次元測量サービスの提供

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

3Dレーザースキャナー GLS-2000S

経営理念

地域社会に根差した親しまれる会社を目指し、
新しい街づくりに貢献してまいります

作業時間短縮と高精度化により 大手ゼネコンから新規に受注

測量、設計、地質調査などを手掛ける出雲市の有限会社大建テック。日進月歩で進化する各種測量機器に対応し、さらには無人航空機のドローンによる空撮や、補助事業によって導入した3Dレーザースキャナーを武器に、測量時間、測量計算、完成検査などの各工程に要する工数を大幅に削減し、図面なども高精度化した。これにより、従来から取引している島根県内の大手建設会社をはじめ、新たに大手ゼネコンからの発注を受け、堅実に業績を伸ばしている。

設立は1999(平成11)年。当時、島根県は1990(同2)年から道路整備事業を推進して幹線道路の整備を積極的に展開しており、2000(同12)年からの高速道路と一体化して地域を活性化させる「新世紀道路ネットワーク整備事業」に継承される前年だった。中堅ゼネコンに勤務した後、Uターンして地元建設会社などで働いていた苅田裕二会長が、石飛吉紀社長らと立ち上げた。

デジタルデータを活用 国土交通省もICTを推進

各種の測量をはじめ、開発行為許可などの申請業務で順調に伸展してきたが、測量機器の高度化により、測量時間の短縮、図面の高精度化、低価格などが求められるようになった。国土交通省も、ICT(情報通信技術)を活用して建設現場の生産性向上などを求めるi-Constructionを推進していた。

このため、時代のニーズに沿って、デジタルデータが生かせる最新機材の導入を計画。苅田会長の次男の苅田崇専務が中心となって、新サービス提供に向けて事業を推進した。まず、上空から広範囲に調査ができるドローンを購入し、空撮による業務を始めた。さらに競争力を高めるため、補助事業を活用して当時はまだ導入企業が少なかった三次元測量ができる3Dレーザースキャナーを入れた。



苅田崇 専務取締役



1 導入した3Dレーザースキャナー
2 3Dスキャナーによる図面
3 威力を発揮しているドローン



新たに床版調査を獲得 新規事業参入も視野に

2つの最新機器の導入により、工数が半減。作業時間が大幅に短縮され、人員も大幅に削減できた。また離れた場所から非接触で操作ができるため、災害復旧に向けた危険箇所の調査など安全性が向上し、道路修繕などでの誘導員の配置、通行規制なども緩和された。地元大手業者から発注が増えたのはもちろん、念願だった大手ゼネコンからは国道などの修繕工事を受注することができた。橋の上を通る車両の重みを橋桁や橋脚に伝える床版の調査も新たに獲得。道路や橋梁(きょうりょう)の修繕は、コンクリートなどが経年劣化することから、さらなる受注増が見込まれる。

また、申請業務など他の仕事に人員を回すことが可能になったが、一方で従業員を増やしたくても、確保できないのが悩み。新たな調査の依頼が見込まれ、不動産業などへの進出も視野に入れるだけに、苅田崇専務は「人材を確保し、新たな受注や新規事業への参入など、さらに業務を拡大したい」と意気込む。

■Company Data

有限会社大建テック



大建テック社屋

代表者名：石飛吉紀
設立年：1999(平成11)年
資本金：3,000千円
従業員数：13名
主たる業種：職別工事業
本社：〒693-0057 出雲市常松町390
電話：0853-24-4455
FAX：0853-24-4466
URL：<https://daikentec.com/>

3Dレーザースキャナーを導入し
ドローンとの併用で業績がアップ